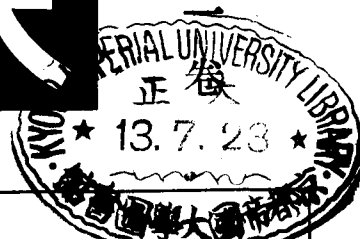


大正十年
二月號

天 界

第 一 卷



第 四 號

内 容

(繪口) 土星の偉觀

土星輪の消失

理學士 山本 一 清

地球の眞軌道に就て

大阪 古賀 和 吉

○天文夜話(其の一)

理學士 百濟 教 猷

邦天文書總覽(補遺)

京都天文臺 古川 龍 城

雜 恒星の直徑新測定法

黃道光を觀よ

報 金星來る

新彗星の發見

▲▲▲質疑三件▼▼▼

英文欄 (The Astronomer)

同好會報

特別附錄 天文語彙 (其四)

二 月 の 天 象

太陽 四日午後五時、立春節。十九日午後
時、寶瓶宮から双魚宮に入る(雨水
節)

月 八日午前九時半、新月(牡牛座)
十六日午前四時、上半月(牡牛座)
二十二日午後六時半、満月(獅子座)
此の月は下半月無し

水星 宵の星。月初は山羊座の北一度、
三日水瓶座に入り太陽と離隔増大
十五 最大離隔 四十、二十二日
留、其の後逆行、

金星 双魚座で宵の星として順行。光輝
及離隔に益々増大。十日最
大離隔の太陽 四十六度餘

觀望最好機。二日春分點に接
近、十九日エプ星に近づく。

火星 双魚座宵天順行、色赤、直徑四秒。
十三日春分點に接近。光輝衰へ觀望
不適

木星 獅子座を逆行、月初シ星から月末ヒ星
へ近づく光輝益増大、夜半

東天の偉觀

土星 木星を近づて逆行。月初乙女座、十九
日獅子座に入る。觀望好都合

天王星 終始太陽に近し觀望不適。廿五日合
海王星 蟹座を徐ろに逆行。テ星の西五度

二日衝、直徑三秒弱、望遠鏡にて
觀測最好期

黃道光 毎夕日没後西天高く聳ゆ偉
觀。一年中の觀望好期。

觀測最好期

觀測最好期

觀測最好期

大正九年十二月二十四日第三種郵便物認可 (毎月一圓二十五日發行)
大正十年一月二十四日印刷納本 大正十年一月二十五日發行

會 告

○二月例會 來る二月廿七日(日曜)午後三時、京都帝國大學理學部物理學教室に於いて開會、次の講演あり。(靴又は草履を便す)

同日講演終了後、大學の天文臺にて月及び金星の觀望を行ふ。(會員は名刺を携帯せられたし。會員外は入場料拾錢)

「月の觀察」 理學士 山本一 清氏

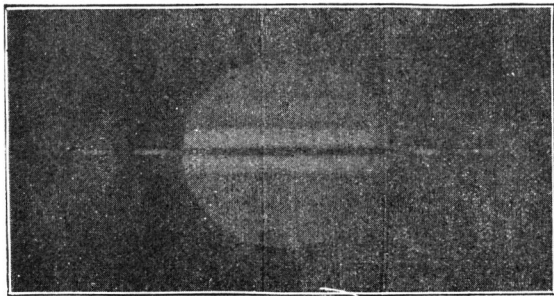
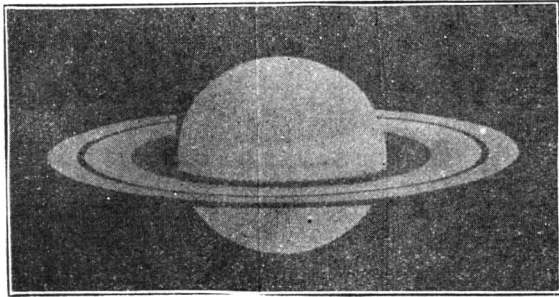
○天文博覽會 大阪市民博物館主催來る三四月頃開催の豫定なり。京都大學天文臺之れを後援す。我が同好會も此の期を以つて大發展の計畫中、詳細は次號に發表。

Contents of THE HEAVENS No. 4. — edited by I. Yamamoto.

Pictures of Saturn (Frontispiece) — I. Yamamoto The Disappearances of Saturn's Ring — W. Kōga, On the real Path of the Earth — K. Kudara, Chats on Astronomy (I) — R. Furukawa, Supplementary Notes on Japanese Astronomical Literatures — New method of measuring stellar diameters — The Zodiacal light — Approach of Venus — New Star of latest discovery — New Comet — Queries — Our English Page: The Astronomer — S. A. F. Notes
APPENDIX: T. Ebi, Astronomical Lexicon (4)

Published by the Society of Astronomical Friends,
Kyoto University Observatory, Japan.

土星の偉観



一八九〇年土星輪の消失期

(バナー教授畫)

編輯室にて

此の號は少し賑やか過ぎるやうな内容となりました。實は、丁度土星と、金星と、黃道光と三つの觀望が同時に面白くなつて來ましたから、どれも一通りの説明を試みたいと思つたのでしたが、遂に御覽の通り土星だけに本文を譲つて他は雜報に繰り入れてしまひました。——ごうも星の數が多いだけ、それだけ、あれも之れも慾ばつて載せたい氣持になつて、いつも惑ひます——こんな事情のために或る會員諸君の希望に逆つて、又々短篇幅ばかりを並べましたことを濟まなく思ひます。次の號から少し實のある長篇を載せませう。

△百濟氏の天文夜話は氏の獨壇場として、今後引きつゞき讀者諸君をひきつけるだらうと思ひます。樂しみです。△早晩此の雜誌のページ數を増さねばなりません。會員の中にも大ぶ人寄稿者が多くなつたやうに思ひますし、又、讀者としての會員諸君の御希望などもだん／＼熱心と眞面目を加へて來たやうですから。

事務室より

會員は益々増加します、事務の方も従つて多忙になつて來ました。こうなれば、いつぞ思ひ切つて増せるだけ會員を増し、千人、二千人、三千人となれば、それにつれて事務室の大擴張をしたいと思ひます。そしてこんなに大きな會になつて了へば却つて事務は敏捷に運ぶだらうといふ見込みをつけてゐます。吾々は既に五百名運動に

は成功しました。今は更に千人運動へ突進させよう。
雜誌は去る十二月二十四日附を以つて、第三種郵便物の許可を得ました。

大正九年一月二十四日 印刷
大正九年一月二十五日 發行

(定價金貳拾五錢)
(郵税金 五厘)

京都帝國大學天文臺内

編輯兼
發行者

天文同好會

振替貯金大阪五六七六五番

右代表者

山本一清

京都市夷川川端東入下ル

印刷者

佐藤靜

京都市夷川川端東入下ル

印刷所

弘文堂印刷所

賣捌所

丸善株式會社

東京、京都、大阪、福岡、仙臺

